

## 第12回環境研究シンポジウム 気候変動と科学技術－考えよう地球の未来！－

「環境研究シンポジウム」は、「環境研究機関連絡会」が毎年開催しているもので、12回目となる今年は、「気候変動と科学技術－考えよう地球の未来！－」をテーマに、11月18日(火曜日)、一橋大学(東京都千代田区)で、14の講演と100題に及ぶポスター展示を行いました。(独)農業環境技術研究所は、連絡会の参加団体として、八木一行研究コーディネータの講演「気候変動と21世紀の農業・食料生産技術」を行い、最近の研究成果8題のポスターを展示し、紹介しました。

このシンポジウムでは、気候変動に対して最先端の科学技術がどのようなアプローチを行っているかについて、多くの研究機関による幅広い話題を提供することができました。参加した403人の方々にとって「地球

の未来」を考えるきっかけになれば幸いです。

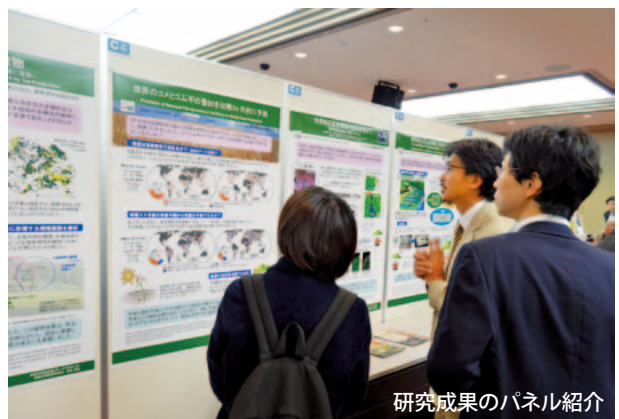
なお、「環境研究機関連絡会」は、環境研究に携わる国立、独立行政法人および国立大学法人の研究機関が情報交換し、環境研究の連携を緊密にするため、平成13年に作られ、13研究機関が参加しています。

参加機関：(独)防災科学技術研究所、(独)物質・材料研究機構、(独)農業環境技術研究所、(独)森林総合研究所、(独)水産総合研究センター、(独)産業技術総合研究所、国土交通省 気象庁気象研究所、国土交通省 国土技術政策総合研究所、(独)建築研究所、(独)港湾空港技術研究所、(独)土木研究所、(独)国立環境研究所、国立大学法人 筑波大学

(連携推進室長 大倉 利明)



八木コーディネータの講演



研究成果のパネル紹介

## 第28回気象環境研究会 生態系の微量ガス交換と大気浄化機能

11月19日に、つくば国際会議場で、第28回気象環境研究会「生態系の微量ガス交換と大気浄化機能」を開催し、大学や研究機関などから約60名に参加いただきました。研究会では、はじめに、東京農工大学の松田和秀先生から、大気成分の沈着・吸収(大気中の気体成分や粒子状物質が植物や土壌に付着または吸収される現象)について総括的な講演をいただき、続いて、生態系でのさまざまなガスの交換に関する話題(水銀や農薬の広域移動と沈着、植物による微量ガスの吸収、土壌によるメタンの吸収、および微量ガスの沈着・吸収現象の統一的な理解)について、それぞれの専門家から発表していただきました。これら多岐にわたる講演により、大気拡散、気孔通導性、土壌中の



拡散について、ガスの種類をまたいだ議論をすることができ、今後、農耕地の大気浄化機能の研究を進めるうえで有意義な研究会となりました。後援いただいた(独)森林総合研究所、(独)国立環境研究所、Japan Flux、AsiaFlux、iLEAPS-Japanにお礼申し上げます。

(大気環境研究領域 米村 正一郎、宮田 明)